

ハイスクールD×D 鎧を創造する者

ナガレール

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

鎧創造と言う名の神器

この神器がもたらす1人の少年の物語

目次

白い魔人と鎧鋼造	
鎧創造と言う名の神器	1
龍とシスターと……落ち武者+白い魔人と龍	4
造られた鎧と真の籠手	8
白い魔人の軌跡	12
カラスとコウモリの愚痴	14
鳳凰と鎧鋼造	
不死鳥？いいえ、鳳凰です	17
イツセーの願い、鋼造の考え	19
不死鳥は鳳凰が天を翔ける事によって沈む	21
鳳凰の軌跡	25
コウモリとマ（るで）ダ（めな）オ（っさんドラゴン）の愚痴	30
臆病な死神と赤い復讐者と鎧鋼造	
その男復讐者に付き、爆破は復讐のあとで	32
木場と一悟と鋼造前編	35
木場と一悟と鋼造後編	39

白い魔人と鎧鋼造

鎧創造と言う名の神器

神器

聖書の神が造り、人の血を引く者のみに宿る神の器

その中に鎧創造（アーマークリエイション）と言う名の神器がある
この神器は、神がそう設定したのか、はたまたシステムの異常な
かはわからないが、時と世界を移動すると言う不可思議な機能が備
わっている。

これはそんな神器を持った、鎧鋼造と名乗る男の物語である

17年前・・・・・・・・

とある場所に漆黒の翼を持つ男と、純白の翼を持つ男が会談を行っ
ていた。

「本当かあの神器が還ってきたってのは！」

「本当ですよ、アザゼル」

「しっかしミカエルよ、よく見つけられたな、アレは過去未来現在、果
ては平行世界にまで飛んでつちまうんだぞ」

「偶然です、システムの微弱な反応にガブリエルが気付いたのです。
そして調べたところ、ある人物に宿っていることが判明しました」

「そうか。で、今代はどこのどいつだ？」

「鎧鋼造、昨日生まれたばかりの赤子です」

「なら俺が監視する、もし俺達聖書の勢力に牙を向くような事があれ
ば・・・・・・・・」

「私は賛成しかねます。殺めるような真似はしないで頂きたい」

「・・・・・・・・約束はできないが、善処する。サーゼクスにも話はして
おくぞ」

「・・・・・・・・」

時は流れ・・・・・・・・

オイツス、俺の名前は鎧鋼造、周りからはゾウさんと呼ばれてる。

もちろんオマタのゾウさんがジャイアントな所から来てる……つてちげえ、よろいこうぞうだからゾウさんと単純だ。はあ？どどど、ど、童貞ちゃうわ素人ど……ゲフンゲフン

で、俺は生まれた時からカラスに監視されてる、正確には生後2日目からずっとだ

で、監視のストレスで至りました、何につて禁手だよ、鎧創造の禁手、おかげで光学迷彩アーマーや、光学透過アーマーを造れるようになったので時々おちよくってます

で、何故かわからないが俺には色んな知識がある。鎧のね、もちろん鎧以外の物も造れる。服とか動物や人間に似せた着ぐるみとかね、後変身ヒーローのスーツとかも。で、何の役に立つのかって？そりゃキミ、ぐへへへへへ

あの3バカ変態トリオに罪を擦り付けられるのさ！

そしてこの神器、面白い事に武器も造れるのだ！制限・制約はある、それが鎧の付属物としての作成、そして同時に他の鎧の武器は作成できない、武器を造った場合解除から1分のインターバルが必要になる。敵が強いとこの1分が致命的になる、だからその時その時で最適な鎧を造る判断力が欠かせない

が、裏を返せば、武器を造らなければいくらでも鎧は造れるのだ。同時に複数の鎧でもね。

そして俺は神器のコアらしきものをクリスタルにして持ち歩いている

いつか誰かが破壊してくれるんだろうな〜フヒツw

さあ今日も1日、学業を頑張ろうじゃないか！我が高校駒王学園でな！

「オイーツス、おつ変態トリオ今日もエロ本鑑賞会か？家でやれ家で」

「そうよそうよ、ゾウさんの言う通りよ！」

「死ね！氏ねじゃなくて死ね！変態ども！」

ふう、今日もコイツら弄るの楽しいわあ。あつちよつと糾弾されて涙目になってらプツ、少しは反省しろバカどもが！

しかしこんなセリフ吐くだけで、女が味方してくれるんだからオモ

シロい。だがしかし、何故モテないのだ

「そりゃあんた、フフツ、そんなズボンの上からでもわかるモノがあればねえ。いつ見ても素晴らしい」

こいつは桐生、同じクラスの変態女で、イチモツスカウターを持っている。こいつと3バカを合わせて駒王変態カルテットと呼ばれている

実は数日前におっぱい魔神兵藤が人間止めた、龍の力と悪魔の力を持つっているようだ。何で分かるのかって？俺もわかんねえよ、でも分かっちゃうんだよなあ、なんで知らんけど

そーいや何か昨日は木場に呼ばれてたな

さあって、今日は何をしようかなって！

「何よ、また邪魔する気!」

「別に、俺にお前からカラスの幹部が監視してるの分かってるから、俺が何かする必要ねえし」

「そう、なら早く消えなさい!」

あつこいつ威嚇してる、いいよね正当防衛で凹してもいいよね! 良し決めたボコス!

そう決めた俺は懐からクリスタルを取り出し、戦闘モードその1 白い魔人テツカマンになるため叫んだ!

「テツクセッター!! テツカマンブレード!」

「またソレ? 攻撃能力も無いくせに!」

「あるぜ攻撃能力………ボルテツカアアアア!」

「ウソ! 転移!!」

あつ手応えがない、転移で逃げたか。

つてあれ? いつの間にかおっぱい魔神とシスターがいない………。

はあ、まあいいかさてと

「いい加減出てこいよ」

「ははっ、なんて威力だ。ロンギヌスマツシャー級じゃないか。さあ鎧鋼造俺と戦え!」

「イヤだよ、ええつと何て言ったつけ? ヴァ、ヴァ、ヴァ、ヴァームクーヘン!」

「ヴァームクーヘンじゃない、ヴァーリだ!」

ウザッ! どっちでも良いじゃねえか、ええつと確かケツ龍肛のアサヒビールの神器だつけ? 飲めば飲むほど強くなるって言う

『ヴァーリ、いまかなり失礼なことを言われた気がするのだが』

「気のせいだアルビオン、御託は良い早く戦え!」

ウザ過ぎワロタ、そうだ! ピコーン

「渦の回って知ってるか?」

「勿論、それがどうかしたか?」

「それ壊滅させたら、戦ってやるよ」

「本当だろうか?」

「おう!」

「良いだろう、明日ちようど監視をDMと交代だ。必ず壊滅させてやる！」

へえへえ、精々頑張つてよ。さてストレス解消にでも行こうかな、ちようどカラスのメスが3羽いることだし、それにあのカラスおちよくるのも飽きたしな

「はあはあ、アーシア大丈夫か？」

「はいイツセーさん、あの方は一体……」

「あいつはクラスメイトの、鎧鋼造つてヤツだ。あいつも神器持つてたんだな。俺なんかまだ発現させたばかりだったのに」

その時正面の地面が発光し赤髪の悪魔、リアス・グレモリーが転移してきた

「探したわよイツセー。教会やその関係者に近づくなと言つたはずよ」

「ぶ、部長！」

「言い訳はいいわ。シスターこれ以上イツセーに近づかないでちょうだい」

「……」

「分かっているはずよ。私達悪魔と、貴女達教会の人間が相容れないことくらい」

「それでも、それでも私は……」

「部長、お願いします！アーシアを、アーシアに」

「黙りなさいイツセー、今はこのシスターと話しているの。邪魔しないでちょうだい」

「部長！」

「いいんですイツセーさん、やっぱり私は……」

「イツセーから聞いているわ。貴女神器持っているそうね。どんな神器を持っているのかしら？」

「はい、聖母の微笑。それが私の神器です」

「それで、これはもしもの話。人を捨て、信仰を捨て、全てを捨てて……それでもイツセーといたい？」

「・・・・・・・・」

アジアの選択、イツセーの想い、リアスの思惑
果たしてその行方は・・・・・・・・

「あーそうだ、歴代の記憶にあの鎧があったな・・・・・・・・。
よし決めたあの鎧を使って、カラスどもを脅かしてやろう」
そしてこの鎧鋼造と言う男の思惑とは

造られた鎧と真の籠手

オイーツス鎧鋼造、通称ゾウさんですよ

パオーンパオーン、カラスの水浴びたあのしい！パオーンパオーン！

……はあ、何だか上が騒がしくなってきたな。もしかしくても

「悪魔め！」

「そうそう悪魔が来たみたいだな」

「あんたのことつすよ！」

何だ？ゾウさんがそんなに楽しかったのか？ならもつとやって……

「レイナアツアアアアレエエツエ！つて臭っ！何コレイカの臭いがっ！」

おっ兵藤だ、それに木場とクソ猫じゃん。何しにきたんだ？

「大丈夫かいイツセー君、うっ！」

「……腐っ！」

「臭いはともかくなんだコレ、皆ネバネバしたカルピスマみれじやないか……それにアイツは誰だ？（左腕が熱い、この状況もだけど何なんだよ！）」

やっぱ気付かないか、そうだよなあ今俺が身に付けてるのは、赤龍帝の鎧ブーステッドギア・スケイルメールだからな。さて、兵藤の中で寝てるヤツは反応するかな？

『Dragon booster』

『boost』

おっ起きたみたいだな、強制起動させやがった。煽ればいきなり禁手になるか？

『boost』

「イツセー君、その腕は！」

「なんだこりゃ、形が変わってやがる」

『boost』

おっとそれ以上倍化させるわけにはいかねえな！土手っ腹に一発！ぶち込む！

『BBBBBBBB BOOST』

「がっ!？」

「お前等も寝んねしてな！」

ついでにイケメンとロリコンも仲良く寝てろ！

「はやっ」

「いっ」

よおしコレでいい

「おいカラスども、今なら見逃してやる。上級がくる前に転移するなりして、どこぞに行くんだな。じゃあな」

数分後

「何よこれ……、アーシアはイツセイ達の回復を！朱乃は残っている魔力痕と転移痕を採取！」

「は、はい！」

「了解ですわ」

2時間前に遡る

「オイツス、ボコりにきたぞカラスども！」

「ひっ！」

「レイナー様、逃げましょう！」

「そうっすよ、至高の墮天使になる前に死んじやうっすよ！」

「行け、ここはわて」

「野郎に用は無いんだよさっさと死ね、つてもう死んでるか。そうだ面白いもん見せてやるよ。これなあんだ」

「まさか、赤龍帝の籠手!？」

「そう、そしてこれが………禁手化！」

「ぶ、赤龍帝の鎧！」

「その通り、そしてお待ちせしました、強姦の時間ですwww」

「「いやあああああ」」

時間は戻り

「朱乃！」

「終わりましたわ、2点気になることが」

「戻ってから聞かせてちょうだい、アーシア3人は？」

「はい、傷は大丈夫です、でも」

「意識が戻らないのね……朱乃、全員を集めて部屋に戻るわよ（戻ったら消臭剤かけないと、イカの臭いがキツすぎるわ）」

ふう………、うむ調子に乗ってウエルシュドラゴンを起こしてしまった………まあいいか。でだ、何でコイツラが俺の家にいるのか3行で

「責任」

「取れや」

って2行じゃないか、面倒だなあ殺すか？うーん触手付いてる鎧あつたかなあ。相手にするのも面倒だ、あっそうだ！日付も変わったことだし

「あつあんな所に羽の代わりに鞭を付けた扇風機が（棒）」

「どこだあああ！」

「げっ、変態墮天使バラキエル様！」

「変態ではない、変態と言う名の紳士だ。ふむ下級のか、鎧私を呼んだとうことは子奴らを」

「うん、おっさんによろしくな」

「行くぞお前たち、ここにはもう来ることはないだろう」

「こんな事で……私の計画が……」

転移したか、ふうこれで少しはスッキリしたな

あのシスター悪魔になつてたな、もつたいない、そんなにあの兵藤と一緒にいたいのだろうか

さっぱりわからん、分からなさすぎる

え？嫉妬乙？なあにをおっしやる、嫉妬なんかしてないやい！羨んでるだけだい！

うおおおお嫉妬パワーアアアアアア!!みんなあ！オラに嫉妬の心を分けてくれええ！

次回嫉妬マスク爆誕！

しないしない、しないよでも嫉妬の心は親心なんだよ、知つとけよ嫉妬だけに。よし今日は鍋にしよう！

白い魔人の軌跡

相馬隆也、鎧鋼造が死して100年ほど経過したころの平行世界の住人で、鎧鋼造より数代前の鎧創造を持つ青年である

彼は宇宙開発のため、家族と仲間とともに宇宙へと飛び立った仲間思いの彼には一つだけ秘密があった、それは本来なら自分はこの世界にいないこと。そう彼は転生者である。

彼の望みは、とにかく不幸になること、できれば昔見たアニメ宇宙の騎士テツカマンブレードのような、そんな不幸で孤独になりたかった

前世では14歳だった、そして男なら一度は罹る中二病だった

そんな彼は精神的に少し成長した10歳、前世も含めると24歳でようやく、恥を知った……

モノローグ／隆也

父が宇宙飛行士であり宇宙学の第一人者であることから、宇宙飛行士としての夢を叶えるため猛勉強を始めた。もちろん身体を鍛えることも忘れなかった。そして父の念願、有人太陽系外惑星調査団の一員となり、宇宙へと飛び立つことになった。

しかし、旧称冥王星付近にて、無人の宇宙船に遭遇し、そこで仲間も、家族も、全て……潜んでいたエイリアンによって捕らわれ、エイリアンの尖兵テツカマンへと改造された。

自身も改造されたが、欠陥品として殺されそうになった所を父の手で逃がされた。父から地球への伝言「ラダムの侵略に備えよ、神話勢力に力添えを頼む」と

その後地球へと帰還し、世界政府への提言、そして帰還後ポロポロになっていた所を助けられた、紅髪の女悪魔にラダムのことを話し助力を願い出た。対価を求められた、迷わず自身の命を捧げた。

何の力もない自分出来ることなどそれしかなかった……、その悔しさからか、不甲斐なさからか、怒り、力を求めた時、鎧創造が発現した

それからは、己を鍛え、練磨し、仲間を殺し、妹は殺され、弟も殺

した……そして俺は恋人を手に掛け禁手に至った。

禁手に至った俺はブラスター化のテツカマンブレードの鎧を作り出した。

中途半端な改造をされた俺は、通常素体テツカマンへと変身する。その上から、好きだったブレードの鎧を身に纏い、禁手する事で武装の強化と鎧の属性付けに成功、この状態をアニメで言うところのブラスター化と同義とした

新たな仲間達を振り払い、兄を殺しに月へ向かった。俺の最期はあっけなかった。兄は強かったが、ブラスターボルテッカーで決着。その後記憶を完全に無くし、変身を維持する力も無くし、宇宙に漂いながら地球の気圏で燃え尽きた。

気が付いたら神器の中で、今代の使い手の鎧鋼造に力を貸し始めていた。俺以外にも歴代が数多くいるようだ。

おっとうやらまた俺の出番らしい、永遠の孤独を生きると思っていた俺の力を使ってくれる。いいぜ好きに使え、真の禁手に至った時、俺の全ての力を貸してやる。

兄を……いや、太陽系に現れたラダム、テツカマン・オメガを殺すために作り上げた、最強のテツカマンの力をな

行こうか相棒、「テツクセツタアアアアア！」

カラスとコウモリの愚痴

カラス編

今、私レイナーレは、ミッテルト、そしてカラワーナと共に神の子を見張る者、グリゴリの軍法裁判に掛けられるため投獄されている。罪状は準反逆罪、及び命令違反。取調では散々戦争をする気か！あの男に戦いを仕掛けるとは、何を考えている！

こればかり言われ罵倒された。私はただ、至高の墮天使になりたかった。アザゼル様のお役に立ちたかった……。

それだけなのに……全部あの男のせい……全部
台無し

、処女は奪われるし、種付けはされるしで最低の気分ね。でもいいの、ふふふ絶対に捕まえて、私の奴隷にしてやるわ

そんなあの男と会ったのはそう、冬だった……神器の反応があつたし、何より人間の間で流行っているゲーム、ドラクエの骸骨剣士の格好をして走っていたわ。何事かと思っていたら、警察に追われていたわね。

その後そいつを公園で見つけて、一撃で殺すつもりだった

光の槍を投げた瞬間姿が変わって、テツカマンとか言う白い魔人になつていた……そして、いつの間にか持っていたランサーで、私の攻撃を弾いた

何度も何度も投げ続けた、体力のある限り何度もね、バテた私にあいつはこう言った「カラスの分際で……、はよ去ね。お前んとこの幹部喚ぶぞ。あつ！あんな所に自動蠟燭垂らし機が！」

そう言った瞬間……冷や汗が止まらなかつたわ。だって幹部のバラキエル様が、いつの間にか現れて何かを探しているのだから……

それから時々あいつに挑み返り討ちにされ、アジア・アルジェントが教会を追放されたと言う情報を得た。兼ねてからの計画を実行に移すべく仲間の3人に命令した。後はお察し……はあ、強姦した責任取ってよね……

コウモリ編

数日前あの男は現れた、一度はイツセーを助けてくれた。まあ偶然何でしょうけど……

廃教会でもいたようだ、僕達からは赤龍帝ではないか……と報告されたが本当かどうかはわからない。魔王様からは行方不明になっていた神器が見つかったと、先日連絡があった

どんな神器かは情報を与えられなかったが、私は恐らくその神器の所有者の仕業と考えている。

あの事件後、イツセーの神器に変化が見られた。ただの龍の手と思っていたのだけど、明らかに違う。イツセーの神器こそ赤龍帝の籠手、ブーステッドギアと判断した。その真偽がわかるまでは上には報告しない。詳細を伏せ、変化したことだけを報告した。

またアジア・アルジエントだけど、あの日イツセーとともに逃げてきた日。その決意を聞かせてもらった。信仰は捨てられないかも知れないが、イツセーと共に生きられるのであれば、悪魔になっても良いと。まったく私が先に唾付けたのに、朱乃もそうだけど、何故イツセーを誘惑するのか……、そいつは私専用の愛玩具だ。

教会では墮天使の転移跡、赤龍帝のオーラの気配。問題はそのオーラが2種類あったこと。そして未知のオーラが残っていたこと……、赤龍帝のオーラについては1つとごまかし、未知のオーラはデータ込みで報告すると、赤龍帝を探す任務と、未知のオーラには触れるなど厳命された。

フッフ、でもそう言われれば知りたくなるじゃない、上には内緒で私専用回線で、墮天使に保護されていたある人物に連絡を取った。しかしその人物からは……。「それは俺の獲物だ！ 邪魔するなら殺す」と脅されてしまった

自力で調べるしか無さそうね……

さあ忌々しい不死鳥を滅ぼすために、訓練でもして寝ましょう。恐らくゲームで決着になる。私は負けられない、真に強い男にしか興味は無いのだから

明後日くらいから裏の仕事を休んで、個人の模擬戦と特訓、それか

らチームを分けた紅白戦ね。首を洗って待ってなさい・・・
イザー！

鳳凰と鎧鋼造

不死鳥？いいえ、鳳凰です

オイーーーーッスーーーー（め〇風）

〇そじゃないです、鎧鋼造ですが何か、今日はさつさと帰るつもりが、歴代の一人がやけにうるさいから旧校舎にやってきた

・・・・・・御覧下さい、火事ですそうなんです。すぐに俺は鎧鋼造で消防隊の服装を作り出し消火器を持ってオカルト研究部の部室に入り、火元にぶちまけたったwwwwあらいい男、でも真つ白よpg

r

・・・・・・

すみません何か入って来ちや行けないところに来たようです

じゃあそう言うことで、部外者は退散ぐえっ

「ちよおつと待とうか人間」

うるさいぞ隆也さん、え？このいい男が弟の声に似てる？しらねえよ。つか放せよいいお・と・こ・ウフツ

「何だか寒気が・・・・・・」

「貴方！」

「よ、鎧！何でここに来たんだよ」

「え？いやあ何か火が見えたから消火しに、な？」

「貴方様は人間・・・・・・ですよね？」

「そうですね、良いおっぱいですね」

「触らせませんよ。申し訳ありませんが、お引き取り願えませんか？」

「良いですけど？消火しに来ただけですし」

「では、取り込み中ですので・・・・・・」

なんかメイドさん怖っ！おっぱいがマズかったか？まあいいや帰ろつと

「待てよ」

『黙れ、似非不死鳥！』

「ちよつ、一輝（いつき）さん勝手に人の口使わないで！」

え？さっさと始末しろ？イヤだよメンドクサイ

「似非不死鳥だと？なら本物つてのを見せてくれるんだろぅな」

「あんたも挑発しないでくれ、一輝さんが激おこぷんぷん丸なんだから、もういい帰るー！」

『どうやら死にたいらしいな』

「ほう、いいだろう。リアス、レーティングゲームだ。どうせこのままじゃ婚約の話は進まない。ならやることは一つだ、この人間も助っ人として参加させる。10日やる、少しは楽しませてくれよ」

と何故か話がトントン拍子に進んだんだが、一輝さん少し反省……しないねこりや。

何やらグレモリー先輩といい男が婚約を賭けて戦うらしい、グレモリー先輩は当然乗っかかるし、俺は出ないからどうでもいい。当日バックレたらいいしね、え？いやいや一輝さん勘弁……修行量10倍？うそおおん仕方ないなあ

じゃあせつかくだから悪魔と契約してみよう！

あつ眷属出してきた、兵藤が何か泣いてるわ。きもっ！

「まあ出でも良いですけど、出て何かメリットあるんすかね？」

「そうですね、ライザー様。これは悪魔の契約とした方がよろしいのではっ。」

「そうだな、何が欲しい？」

「うーんと勝ってから決めるわ」

「良いだろう、じゃあなりアス。精々僕どもを鍛えておけよ」

あつ消えた、涼しくなった！え？合宿するから俺も来い？えー何でだよ。帰りたいんですけど……

はあメンドクサ、一輝さんマジ反省し……ひいひい何でもないですううう、だから止めて鳳凰幻魔拳はやめて鬱になっちゃうううう

イツセーの願い、鋼造の考え

オイツスうううう

鎧です、いきなりですが合宿は3日目になりました

一輝さんの地獄を1割くらい味あわせたら兵藤がくたばった、で俺はというと

「コーゾー、貴方がある程度強いのは確かよ、でもねイツセーを潰してどうするのよ！」

「ああはいすんません、でも俺レーティングゲームとやらに興味ありませんし。一輝さんがやれって言わなきゃやらなかったし」

「そのイツキって何者なの？」

「すんません、俺も良く分かってないんですよ（嘘だけどさ）」

と星座・・・じゃねえ正座で説教されてるわけだ、一輝さんは戦闘の師匠で、神器の中で俺を徹底的に痛めつけるのが趣味。その上すぐに出てきたがる、目立ちたがり屋さんなのです。

平行世界でギリシャ神話、アテナの聖闘士（セイント）だったそう。この世界にも聖闘士は居るらしいが聖衣の形状も何もかも違うのでどうでもいい。俺のはマスクがヘルメットタイプだし、何故かでっかい箱に入って出てくるしね。

さて、説教は終わったようだ

「すーいーまーせーんでーしーたー」

「貴方ねえ、本当に反省してるの！」

ああうるせえ、外に出よつと

『さあ修行の時間だ、小宇宙を燃やすのはもう自由にできるな?..』

「まあ一応」

『なあに今日は頭の修行だ、しっかりと憶えておけ。』

小宇宙の真髓第7感、セブンセンスズについてだ。セブンセンスズとはそもそも』

はあ、今日は正座ばっかだぜ.....

二日後

「おう兵藤、すまんかったな。ちよつとやりすぎた」

「ああ俺こそ悪かったな。でもおかげで神器の龍と話せるようになったよ。後神器が第二段階になった。力の譲渡ができるんだぜ」

「へえそうなのかあ」

「なんだよあんまり興味なさそうだな」

「まあせつかくだ、俺からのアドバイス。倍加と譲渡の意味をよく考えろ。考えた上でまずは極めろ」

「お、おう（考えるって言ったってなあ、そのまんまじゃないのか）」

「……うんやっぱ馬鹿だこいつ、よく駒王に入れたな……『おい鋼造、それはお前にも言えるんだぜ。小宇宙の意味、よおつく考えろ』」

ああはい、そうですね。精進します！

（ちっ、焦れたい。さっさと使いこなせるようになれ）

よし、それじゃあまた神器の使い方を考えてみますか

（そうじゃねえよバカたれ……あん？んだよ隆也その目は、うるせえなさっさと暴れたいんだよこっちはよ！クソっいつまで模倣し続けるんだこのバカは）

修行最終日、修行終了後兵藤家前

「ありがとな鎧、ちよっとオレの話聞いてくれるか？」

いやだよめんどくさい、って返事してないのに……

ほうほう部長を守ると、最強の兵士になるのかそうかそうか、それがお前の願いであり、目標か

……なら俺は、なってやろうじゃん最強のアーマーカーリエイターによ！まずは俺だけの鎧を創る！

でもその前にあの焼き鳥をぶちのめそう！一輝さんのストレス解消に……な！

不死鳥は鳳凰が天を翔ける事によって沈む

オイツス

いきなりだけど、ゲームの真つ最中

え？そんな時に何やつてるつて？そりやお前……

はいゲームフィールドに造られた校舎の屋上で鼻ホジってるんだよ見りやわかんذار

さつきから一誠が随分吼えとるな、まあ一誠以外全員やられたしな。ああそろそろ限界だな

「……………投了するわ」

「ふざけるなりアス！俺はまだあの小僧と！」

そして、出遅れた俺は精神世界で一輝さんのサンドバックになりました……、ううつ何で精神世界のダメージがそのまま肉体に……

一応ライザーとか言う奴から招待状貰った、とにかく来いと書いた紙と、魔法陣グル〜2じゃなくて普通の魔法陣が描かれた紙があった、なんか知らんけど今日だし

まあいいや行くとしますか

で来てみたら、焼鳥がボコられてたwww

あーあ倍加した聖水ぶっかけられてリタイアしてら

しばらく摘まみ食いとると、さつきの焼鳥が声かけてきた、さすが不死鳥微妙にしぶとい、戦いを挑まれた

「まあ俺にもリアスには思うところがあって、さつきは勝ちを譲ったがお前にだけは負けん！」

「……………鳳凰幻魔拳……………」

「何!?!ふんどんな技かと思つたら、少し額を疲れただけか、なら死ぬ!!」

「うわあああああ」

「ハツハツハツハハハハハハ！こいつは傑作だ。でかい口を聞いた癖に一瞬で死にやがった。フハハハハハハ」

「……………」

「しかも生首だけになりやがったぜ、ハハハハ散々人を馬鹿にしや

「止すんだ！」

「し、しかし魔王様！」

「では聞くんが、フェニックスを倒しきる攻撃に耐えられるのかな？そして、あの鎧を突破できる攻撃力を持っているとでも？」

「……………」

「無駄に命を散らさないでくれ、君達は残り少ない純血の上級悪魔なのだから」

「はっ、申し訳ありません」

「さて今代のアーマークリエイター、君は何故ここに？」

この紅髪…………話が通じそうだな、それにこの手合いの扱いが上手い。魔王とか言われてたなあ、こりや中々の統治者だ。それに純血がどうのと、思ってもなさそうなことをサラっと言つてのける政治屋でもあるな。

一輝さんも言つてたこういうタイプには、幻魔拳は絶対に効かないって…………。手強い、とりあえず逆らうのは得策じゃない…………か

「さっきの焼鳥に呼ばれてきたんだが」

「証拠は？」

証拠つて言われてもなあ、あつそうだこの紙切れ！

「ふむどうやら本物のようだ、ライザー君が招待したと言うことか」

危険な香りがするから逃げよう！

「もう帰つて良い？」

「もう少し待つてくれるかな？」

「あ、ハイ」

「さてこのくらいかな」

「あのお……………」

「日本円で100億、君が出した損害だ。もちろん損害賠償だけじゃなく、慰謝料も入ってるよ」

「うそおん。それ焼鳥に請求しといて下さい。悪魔の契約してて対価決めてなかったからそれで」

「ん？どういふ事かな？グレイファイア？」

「あああの時の契約ですね、確かに対価の取り決めはされておりませんが、よろしいのでは無いでしょうか？」

「フェニックス卿？」

「やむを得ませんな．．．．．会場の損害は総てフェニックス家が保ちましょう」

「そう言うことだ、今代のアーマークリエイター、鎧鋼造君。またのお越しをお待ちしているよ」

俺は思った、こいつ等敵にしちやいけない、骨の髄までしゃぶられる。文字通り悪魔だ．．．．．

この1週間後、焼鳥もといライザーが鳳翼天翔教えてくれと弟子入りしてきた。その時に聞いたんだが、魔王は4人いて軍事、文部科学、外交と広報、そして内政と財務に別れて担当しているそうだ。で紅髪はその内の内政と財務担当で、身内にはとてつもなく甘く、外部にはとてつもなく厳しいそうだ。

そして、コイツも大概狡猾だった。悪魔の契約はここに締結した、さあ鳳翼天翔教えろと言ってきた．．．．．自分から喋ったクセに．．．．．

はあ．．．．．どうやら逃げられないようだ。だがしかし面倒だから幻魔拳で徹底的に叩き込む事にした。．．．．．このまま死なないかなあ

鳳凰の軌跡

俺の名前は一輝、まあ所謂転生者だ

聖闘士星矢にドハマリして、中二病を煩ってバカな神に殺された
転生させてくれるつつうからせつかくだから一輝に転生した

特典？無かったなあ

気が付けば瞬を抱いてた、そーいや変な女が何か訳の分からんこと
言ってたな

とりあえず俺は自分を鍛えた、さすが主人公の窮地に現れるお兄
ちゃん、馬鹿みたいに強くなれた。セブンセンスにはまだ目覚めて
ないが、そこらの白銀程度なら一捻りできる自信がある

まあ今はそんな事はどうでもいい、それよりも修行だ修行あるの
み、そう思っていたある日、俺の中で何かが目覚めた。最初はセブン
センスかと思っただが、どう小宇宙を燃やしても光速に到らなかつ
た。そして何度か試行錯誤していると、鳳凰星座の聖衣をいつの間
に身に纏っていた。

あのクソが確か持っていたはずだ、昨日もマイハニー、エスメラル
ダが見たと言っていた

どうするか・・・・思案していると聖衣が消え、使い方が頭に
書き込まれていった。使い方は単純、身に纏いたいモノを想像するだ
けでいいらしい

俺は思った、これってまさか神器ではないのかと・・・・でも
何でこの世界にあるのが謎だ、まあそれは良いとして。明日にでも
あのクソをどうにかしてやる！

次の日、クソに戦いを挑んだ、倒してやったよ、ああ倒してやった
さ！俺の・・・・俺の手でマイハニーをよ!!!

その後殺してやったよあのクソを!!クソは自分の盾にするためそ
の日エスメラルダを呼んでやがった。

止めを刺してやろうと思ったら、はっあの野郎暗黒聖闘士を使って
俺とクソの間にエスメラルダを!!

俺は呪ったよこの運命を、一輝の運命を変えてやると意気込んでた

のに結局同じ運命だ……、クソから受け継いだ鳳凰星座の聖衣……何が聖衣だ！何が聖闘士だ！そう叫びながら聖衣を破壊し、火山に放り込んでやったよ。まあ後の世のためにパンドラボックスに入れてからだがな。俺には神器がある、それで造り出せば十分だ……

次に俺が造り出したとき、聖衣は神聖衣になっていた、禁手に至ってたようだ。だが今の俺には分不相応だ、だからセブンセンスに目覚めるため俺は修行を再開した、暗黒聖闘士も鳳凰星座のみ残し全員殺してやった。また残した連中に日本と聖域の情報を収集させた

数年後、銀河闘争が始まると情報を得た。いよいよ原作が始まる。セブンセンスにも目覚めた……暗黒聖闘士も白銀レベルにまで引き上げた、さあ覚悟しろよ9人の弟達、修行の始まりだ!!

それからは徹底的にボコつといた。やっぱり、星矢、紫龍、氷河、瞬は強い。白銀に届きそうなレベルに仕上がっていた。師匠がよかつたのだろう、星矢と瞬は強い白銀、氷河と紫龍は黄金だったな

しかし、瞬と氷河の甘さだけはどうにもならんな……瞬は優しすぎる、氷河は単純に甘ちゃんだ。星矢と紫龍は敵なら倒すことはできていた。

他の5人はダメだ、小宇宙を燃やす事しかできてない、長所を頼りすぎているし、洞察力が足りない、処世術には長けているがそれでは平和は守れない。だがこの実戦が良い薬になるだろう

そんな事を考えながら、星矢のまさかの反撃で受けた傷を癒しているところだ。ほんの一瞬だが流星拳が光速になり数発貰った、その結果が聖衣を貫き肋骨数本と、とっさの防御で折れた左腕だ。この結果に満足して射手座の聖衣を総て返した

そうそう、この世界は半分アニメ版の世界だったわ。原作とアニメがごちゃ混ぜだ、俺達の聖衣はアニメだし、クリスタル聖闘士はいないが、スチールはいる。氷河がホーロドニスメルチを放つかと思つたら、オーロラサンダーアタックで表現の奇行士だったよ。北欧戦も考えとかなきゃな

それからしばらくの後、暗黒聖闘士から連中が聖域に向かったと報

告があつた、ならば俺も行かねばな、今のあいつらではシャカは無理だろう

予想通りだった、白羊宮でムウに本物はどうしたと聞かれ、破壊して火口に沈めたと伝え、金牛宮でアルデバランを倒して（弱い弱い言うけどめっちゃつええぞ、敗北理由は全部不意打ちだ、想定外の所からの攻撃に毒じゃどうにもならんだろ）通してもらい、獅子宮では事情話して通してもらい何とか間に合った（出番的に）

どこからサガが見てるか分からんからな、神聖衣は使えない。通常 of 聖衣でシャカ相手にどこまでやれるか、しかしとんでもねえなシャカはあれでまだ小宇宙を内にため込んでるんだからな

で、やつぱり聖衣が偽物である事を見破られた。そして俺の中の神器にも気付いた。ヤバスｗｗｗｗ本気出せとか言ってきた。イヤどす、まだ誰にも見せませんどすえ。だからセブセンシズで戦うことにした、シャカ速すぎ、境界固すぎ、無理ゲーｗｗｗｗ

サガ・シユラ・カミュのアテナエクスクラメーションでやつと倒せたもんなあｗｗｗｗ

何かキヤラ壊れてきたつて言うかメツキ剥がれたｗｗｗｗ

無理ポｗｗｗｗ逃げてえ、けどそう簡単にはいかねえよなあとかやつてたら神器封印された上に五感剥奪されたわ、さすが最も神に近い男仕事早い

仕方ない、一緒に逝つて貰うぜ100億万℃の彼方とやらにな！

はっ！どこだここ？異空間かあ、ん？シャカが何か話してら

なあんだもう5時間以上経過したのか、まずいな時間がない頼んだぜムウ、シャカ・・・もうちよい寝よ・・・

「いつまで狸寝入りしているつもりだ？君が一体何者なのか、それは今はいいだろう。さあ行きたまえ、教皇の間へ！

本来の鳳凰星座の聖衣ならば一摘まみの灰があれば甦るが、不要なのだろう君の魂に刻まれた力であれば・・・

急ぎたまえ、時間はわずかだ」

この先は何の事はないアニメの展開通りだった、やつぱ実戦経験の差が出てるわ。黄金は強い、無駄に強い、サガもシャカも頭おかしい

わ、結局傷一つ付けるのが精一杯だ。

考えさせられるよな聖域十二宮は、悪人つて結局のところあじやばと薔薇しか居なかったしな。と言つても、この後冥界で色々考えたのか改心するしな

悪のサガも手段はどうあれ地上の平和を考えていた。そんな黄金達の遺志を俺達は継がなきゃならない

聖衣も修復して貰つて暫くの後……来ちゃった

何がって？太陽神アベルと墮天使ルシファー……どうせいつちゆうねん！何で同時にくんねん!!どうせいつちゆうんじゃ!!

結局は各個撃破ですはい、ルシファーを倒すのにアベルが手伝つてくれたけど、その後ポロポロの状態で戦闘続行ですわwwwいやあ死ぬかと思つた、んでさらに一ヶ月ほどしたら……北欧wwwwww疲れてるつちゆうねん!!

ミーメとシドバドまで休んでよwwwピンチの時に出了たほうがカッコいいしwww

まああつさり終わりましたわ、神闘士強いようで弱いし、シドバドとジークフリートくらいだしなまともに戦えるの

海皇もあつさりやつちやいました、いや死ぬかと思つたけど黄金と比べりや雑魚だわ、だつてちゃんと攻撃通るんだもん

さあつていよいよ冥界だ、待ちに待つてた出番が来たぜ、神聖衣の出番ですよ。エリシオンに入つてからですけどね。

まあなんやかんやあつて、まあ誤魔化すのに一苦労して、何とかハーデスたおしたよ。シヤカにはちゃんと話した、俺の生い立ちをな最終的にΩまで続いていた、Ω終わつてから適当に生きて死んだわけだが、どう言うわけか神器に選ばれた、何でも来たるべき時に備えろと。先客が既について、隆也と賢と一悟だったな。

賢は復讐者だし、一悟はビビりだし何だかなあつて感じだったが。俺が得意気に芸を披露したら……賢の野郎、御託並べて日本じゃあ2番目だとかるつせえよハゲ!

絶対に聞かないからな、日本一は誰なんだとか絶対に聞かないからな!

それはそうと隆也とは何故かウマが合うんだよな、話を聞いたら弟と妹がいたらしい、多分そのせいだ。

さて、鋼造。何やらお前だけの鎧を考えているようだが、精々間に合わせてくれ。特に真の禁手はな。至れば使わせてやる、鳳凰星座の神聖衣をな！

『修行をサボるな！腕立て1万追加な』

「すみませんすみません、一輝さん勘弁して下さい！」

『仕方ない、じゃ腕立て10万な』

「ひいいい！」

『その修行の厳しさ、神器内じゃあ確かに1番かも知れない。だが日本じゃあ』

『うっせえぞ賢!!』

『い、一輝さん落ち着いて!』

『落ち着け一輝!』

『ああもう!オラ鋼造!さっさとやれ100セットだぞ忘れんな!』

「勘弁して下さいよおおお!!」

コウモリとマ（るで）ダ（めな）オ（っさんドラゴン）の愚痴

コウモリ編

結果的にコーゾーに救われた

お兄様が言っていた今代の鎧創造者・アーマークリエイターと……

一体何者なのかしら？お兄様は、詳しくは教えてくださらなかった。調べようにも文献も残されていない。

早くも手詰まり、もう一人の赤龍帝のこともある、あの人物は頼りにならない戦闘狂、他に情報のパイプはない、どうしたものかしら。

次に考えるのは私の指導力の無さね、骨身に染みたわ。少しソーナに相談してみようかしら。こういう部分はやっぱりソーナのほうが上だから。

後は情報の整理ね、もう一人の赤龍帝の謎、コーゾーの神器について、アーマークリエイターとは何か、はぁ課題は山積みね。

マダオ編

許さんぞあの男、俺の力を無断で使いやがって、オーラは若干違ったが造りモノなのはハッキリ分かっている。

今度俺の力を使って見る、代償なしで相棒を至らせて殺してやる!!

はぁ、しかし相棒よ、エロいのは構わんが乳乳乳！乳しか頭にかお前は

まあいい……早く強くなれ、強くなってアイツをぶっ飛ばせ、俺の力をたかが鎧を再現しただけで使いやがった、アーマークリエイターをな！

……よし誰も見ていないな……ええつと確かここに日本酒のワンカップとタバコがあったな……よし、人型になつてつと。サングラスつけて、後は歴代のフリをしてハーツハツハツハツハうめえうめえ酒うめえ

たまんねえよなあ……女房に捨てられてよお……
良かったなあウエルズの守護龍してたときはよお、巨乳のアルトリアがいて、精霊達がいてよおヒック……

なのによおバカどもが反乱起こしやがってよお！

それだけならいいさ、人の歴史は戦いの歴史だったからなあヒック
一番許せんのは……ミカエルの小僧どもだ！アルトリアが死んで、墓と精霊達の湖を荒らしやがって！エクスカリバーも持って行きやがった！！

その後満身創痍だった俺は女房に捨てられてよお、それもこれも全部アーマークリエイターのせいだ！ミカエルのせいだ！絶対ゆるさねえぞお！ヒック

その後だったか、あのダラダラ白龍に会ったのは。俺の愚痴をああダルツとかぬかしやがって！酔った勢いで喧嘩するほどバカじゃねえ、女房に散々怒られたからなあ、力は俺の方が上だが頭が上がらんかったな……うおおおおん帰ってきてくれよおおおおテイ
アアアアヒック

なんだつけ？まあいいや、そういや歴代の小僧に観察日記つけられてたよなあ……まさか見られ……こっちみてるううう、何か帳面取り出して書いてるううう！ガビーン！

はぁ興が削がれた、寝よう……いやいや舌打ちしないでくれよ泣くよ？

はぁ相棒はつと……ちつあんな負けかたして、力を貸してやった勝ったのに天狗になつたら、仕方ないしごいてやるか

臆病な死神と赤い復讐者と鎧鋼造

その男復讐者に付き、爆破は復讐のあとで

オイツス

鎧鋼造ですがなにか？

俺の特技は何かって？日本一です

何が日本一かっていうと、まずはこれを見てくれ

そう今は学園だ、木場の阿呆が復讐に取り付かれて、戦い方を忘れたまま敗北を喫した。変態は変態だったよ、紫藤のおっぱい中々でしたごちそうさまです。

ん？俺も変態？違うな、あの変態は世界一の変態だが、俺は日本一の変態だ。

そしてクアルタが木場にトドメを差そうとしてたので

ギターを鳴らしながら

「あかあいゆうひにいいもえあーがあああるううう」

「何だこの下手くそな歌は！」

下手くそとは失敬な！日本一の音痴なだけだ！

「お前さん達、聖剣、魔剣の扱い方に自信があるようだが……その腕前……日本じゃあ二番目だ」

「ほう、一般人風情が何を言うのかと思えば……なら日本一は誰だ？」

そう言われちゃあ仕方ない、口笛を鳴らした俺は「チツチツチ……」

日本一のキザな笑顔を見せて自分に親指を差しながら笑ってやった

「っ!?!ならどちらが上か勝負しようじゃないか、まっ一般人にこの、破壊の聖剣を扱えるとは思わないがね」

「良いだろう。だがその前に！そのあんた、これに着替えてるんだな」

「え？え？どこから出したの？」

「そんな事はいいだろ？さあつてそこのお嬢さん、お手並み拝見といきましようか」

「吠え面かかせてやる。グレモリー、何かいい的はないか？」

「朱乃、訓練用のアレを」

「はい部長」

そう言つて用意させたのは冥界一の硬度を誇る冥界産の黒曜石だ、モース硬度15ダイヤモンドより硬い鉱石だ

「噂に聞く冥界黒曜石か……見ていろ……見ていろ……はあ!!」

破壊のオーラを十文字の斬撃にして飛ばしたんだが、甘い甘い。見ろただ粉々に砕けただけだ

「やって見ろ、お前が聖剣を扱えるとは思えないがね」

見ていろ、一悟さん、白さん、残月さんやりますよ！

「うん、聖剣の因子は僕が鎧に添付するからまかせて！」

「王が珍しくやる気になってるんだ、仮面だけ貸してやる顔隠してろ」

「あの程度の鉱石我等の力であればゴミだ」

「いよおっし！」

掛け声と共に服を脱ぎ捨てた、そこに現れたのは仮面を付けた……黒い鎧を纏った俺です

ええつと聖剣の因子を集めて、破壊衝動を聖剣にのせて……

「ば、バカな！」

瞬速で、冥界黒曜石を切り刻む！

「……何だ、何も起こらないじゃないか、この勝負私の勝ちだ！」

『お前さんがそう思うんならそうなんだろうよ、お前さんの中ではな、じゃあ俺は帰るぜ』

そうして鋼造が去っていき、ゼノヴィアとイリナがグレモリー眷属に話をして去ろうとしたとき

先程まで何も起こらなかった黒曜石が灰のように粉々になり、ゼノヴィアの周りを舞った、舞い落ちた灰は文字を描いていた……その文字とは

そうあのAAだ。黒曜石の灰でクマーが描かれ、ねえねえ今どんな

気持ち?どんな気持ち?と挑発するかのようだった

そして後にイリナは語った……その時のゼノヴィアの顔はまさに鬼だったと……

「クックククククアーハハハハハハWWWフヒヒヒヒWWWアーハハハハハハWWW」

見た?見た?ねえねえ見た?賢さん一悟さん、あいつの顔WWW
『相変わらず性格が悪いねえお前さん、その性格の悪さだけは日本一だ』

『うつ、ちよつと笑いすぎる気がするけど……』

いいんですよ2人とも、ああ言う奴は一度鼻っ柱をへし折ってやらないと

『ほう中々調子に乗っているな、それに元気も有り余つてると見た』

……一輝さんもう笑いすぎて動けないので今日の修行はお休みしますね……

『いいだろう』

……うわつ凄いい悪そうな顔してる……今日は精神修行か

『自業自得だ鋼造、服を作ったのは素直に褒めてやれるが、あれはやりすぎだ。悪魔以上に悪魔らしいな』

いやあそれほども

『褒めてないんだけど』

さてどうします?聖剣計画の爺さんと、基・地外と、最上級墮天使ですけど……

『あいつらを倒すなら俺も付き合おう、俺の居た世界じゃちよいと怨みがあるんでね……』

『ぼ、僕も手伝います。あのゼノヴィアさんや紫藤さんに剣は道具じゃないってこと……教えてあげたい。木場君にもね』

じゃあ今回は賢さん、一悟さん宜しくつす

『ああ、それとタイムラグには気をつけろよ』

ええわかってますよ

木場と一悟と鋼造前編

オイッスウ！

鋼造ツスよ、お待ちかねオイラの象さんがうなつて光るぜ！

何？んなわけない？まあ確かにそうだ！

で、何で木場が家にいるんだ？わけわからん、もしかしてバレた？

賢さんの着ぐるみ着てたのになあ……

「やあ鎧君、まさかあの時の堕天使を取り込んでるとは思わなかったよ」

「……………」

「部長には報告しないから安心してくれ……………僕の目的は一つ、少し稽古を付けてほしい」

「ねえよ」

「なぜだい？」

「冷静になればバカが、聖剣計画の関係者なのか何なのか知らんけど、頭冷やせ」

でなきや、訓練には付き合えんな」

「そうかい……………あの剣術を教えてほしいんだ、冥界黒曜石を一瞬で灰のように粉々にしたあの剣術を！」

「ちっしつかりバレてら、いつ気付いた？」

「何となくだよ、雰囲気か君に良く似てたんでね」

「ちよつと待ってろ……………」

一悟さん、どう思います？

『そうだね。少し彼の精神世界に行ってみるよ。大丈夫、白さんの仮面を作ってくればそれ経由で行けるから』

仮面を渡したら、自分が最も使い易い剣を作り座禅を組んで、足の上に剣と仮面を置いて貰ってね』

了解つす……………そういや俺もやらされたなあ、武器も作れるって分かったときピッタリの剣を作ってみたんだよな

そしたら、一悟さんと話が出るようになったんだ

「木場、座禅を組め、組んだら最も使い易い剣を作って足の上にもこの仮

面と一緒に置け」

「こうかい?」

「そうだ、そのまま剣に意識を集中させろよ」

「……………ああ……………」

「……………入ったか……………おいレイナーレお茶とお菓子!」

木場・精神世界

「やあ木場君」

「君は誰だい?」

「そうだね、鋼造君の神器に宿る歴代の魂さ」

「僕に何のようかな?」

「これから僕と戦おう、鋼造君が使った剣術……………身を持って修得してほしい。安心して、ここでの1日は現実ではたったの10秒さ。1時間あれば約1年の修行になる」

「へえそうかい……………」

「それと条件が1つ」

「条件?」

「今君が握っている剣以外の使用を禁止する。他を使えば即終了だ。もちろん造り直すときに他の属性付加も禁止だ」

「わかったよ……………それじゃあ始めようか」

「うん!先に行っておく、僕はあと3段階の変化を残している。今の状態を始解、第一段階だ。目標は第三段階の僕と対等に打ち合うこと、最低でも第二段階の僕を追い詰めることだよ。君の強みはスピードと手数の多さだ。それじゃあ……………始め!」

ああ始まったなあ、木場よおっく見ておけよ。一悟さんの戦い方は半端ねえぞ。一悟さん曰わく正史の一護さんは剣とスピードだったけど、一悟さんは斬拳走鬼に弓矢も使うバケモンだ

近づけば斬拳、離れば鬼道に弓矢に瞬歩・ソニード・飛蓮脚を組み合わせた超高速歩法、おまけが斬魄刀の能力で斬撃を飛ばしてくるんだ。よおっく見とけ、少なくとも第二段階まで行けば得るモノがあ

るはずだ

「はあはあ……もう数ヶ月経つのに一太刀も浴びせられないのはあはあ」

「そりやそうだよ、君はまだ何もしていないに等しいんだ、今日明日は休みにしよう。少し語らうといいよ、君の神器魔剣創造とね。もしかしたら歴代の記録を見ることができるとかもね」

「歴代の記録？」

「そうさ、君達はまず神器を道具だと思っているようだけど、そうじゃない。意志は無くとも想いがあるはずなんだ。」

「そうだね、僕の斬魄刀・残月を紹介するよ。残月さん宜しくお願ひします」

『呼んだか一悟？』

「少し木場君と話してみてるかい？」

『いいだろう、木場と言ったな、お前に問う』

「はい」

『お前は独りだと思うか？仲間が誰一人いなくなっても、独りだと思えるか？』

「そしてもう一つ、友人・知人の名前を知ったらその人物の全てを知れると思うか？」

『どういう事ですか？』

『まずは問いに答えよ』

「1つ目はそう思います、2つ目はそうは思いません」

『それは何故だ？』

「1つ目。所詮僕は復讐者、仲間何ていらぬ。独りで朽ちるのも運命さ。」

「2つ目普通に考えて名前だけ知って何がわかるのか？そう言うことですよ」

「ここに回答を聞いた残月は一悟の方を向いて、精神に語りかけた」

『なるほどな……。一悟この少年と話すことは、今は何も無いようだ。ただ……。』

『ただ?』

『……独りではない……と言う事を自覚すれば良いのだがなあ』

『やっぱり残月さんもそう思いますか』

『ああ、白を呼ぶのは止めておけ確実に暴れるぞ』

『そうですね、当面修行内容を神器との対話に重点を置きます』

『その方がいい、身体能力は上がっているが、精神は未熟なままだ。お前にも見えるだろう、神器が泣いているのが』

『はい』

そう話し終わると木場に向き直り、残月は『対話と同調』と言う一言を残して消えていった。

「あの人が僕の斬魄刀、その片方さ。これから君は神器と対話をして欲しい。見えるだろう?あの頂に深く刺さった剣が君の神器だ対話するといい」

「……あれが僕の神器……魔剣創造……」

「そうさ。作り出す剣は今君が持っているもの限定だけど、もしあの剣を抜くことが出来たら……使ってもいいよ」

あーあ、木場が入ってからかれこれ2時間か、思った以上に時間かかるな、それにいつの間にか剣が変わってるし。どうやら対話には成功したらしいな。

さしずめ仕上げるところか……って仮面の雰囲気が変わった……おめでとう木場君や、死なないよう祈ってるよ

「あんたさあ、いつ責任取ってくれるわけ?」

「えええええ、また今度ね」

チツて……舌打ちされちゃったよ。

アザゼルさん、はやくこいつら引き取ってください

はあやっぱ小池くんのポテチはうまいなあ……それにフアントムオレンジ……最高じゃないか!

あーあ風呂入って寝よつと

木場と一悟と鋼造後編

木場が修行を終えて精神世界から帰ってきた
かれこれ3時間経過していた、その間木場のスマホがウルサかった
よ。

でも何で賢さんノリノリなんだ？ズバツと参上！ズバツと解
決うううって憶えちゃったじゃん、しかも何か頭の中でリピートして
てやばいわこれ

「お疲れさん、鳴り響いてたぜお前の携帯」

「はは、そうみたいだね」

「いい顔になったな、それなら復讐も果たせるだろうって歴代が言っ
てたぜ」

「ああありがとう、とりあえず僕は主の元に戻るよ。本当にありがと
う、特に一悟さんにはよくお礼を言っておいて欲しい」

「あいよ」

1時間前・・・木場精神世界

「今の気分はどうだい？」

修行が終わりを迎えた木場は、一悟と対面していた。一悟との修行
は半年前に終わり、魔剣創造との対話と戦闘を繰り返していた。

木場の魔剣創造は、鍛冶屋とその鍛冶屋が剣を与えた青年の魂が封
じられていた。その青年との修行が続いていた。

鍛冶屋が作った剣は呪いをかけられ魔剣となり、その魔剣となる前
の一振りの剣を使っていたのがその青年である。

通常の魔剣創造は魔剣を造った人物の記憶を、一本の鞘に封印した
ものがこの世界での魔剣創造の成り立ちである。

気付いたのは過去最強の魔剣創造使いが、墮天使に与したからと言
われている。

そして、魔剣創造に認められたら木場はようやく禁手の鍵を手にし
た。憶えていて欲しい禁手に至には二つの方法がある。

1つは通常の世界の流れに逆らうほどの変化

2つ目は神器との対話で認められた後、1つ目の条件を満たすこと

である。逆のパターンでも可だが2度目の禁手に至ほどの変化が必要となる

この二つ目こそが、鎧創造の歴代が言う真の禁手である

「ああ最高だよ、今なら聖剣だって………ククク」

『一悟、俺に代われ。このバカは一度叩きのめさなきゃならんようだ』
「賢さん………どうやらそのようですね。よろしくお願いします」

『ああ、何?行く方法?日本一の俺に不可能はないぜ』

「と言うわけで木場君、修行続行だよ。次は早河賢さんが、君を指導してくれるよ」

「邪魔をするのかい?」

「そうじゃねえさ木場。俺と同じ復讐者………」

どういう意味だ?木場はそう思い戸惑った、この人は一体何者なのだ。鎧創造の歴代所有者の1人なのは確かだ。

だが何故だ?何故かはわからないが、最近兵藤君から感じる親しみを………この人からも感じる。そして、何故自身と同じ眼をしている?

「俺はな木場、俺はまだ復讐を完了しちゃいないのさ。だが俺のターゲットと、お前のターゲットはこの事件で一同に集まるのさ。俺のターゲットは………」

そう言つて、木場に自身の歩みを教え、復讐だけに捕らわれることの愚かさを説いた

「それだけかい?君が何者かは良く分かったよ。でも僕はこの気持ちを抑えることができない。だから!魔剣創造!!」

「なら戦闘で俺に勝つて見せろ!鎧創造禁手化!ズバツトスーツ!!赤龍帝の鎧!!」

「分身!?!」

「分身じゃねえさ」

「覚悟しろよ、木場あああああ!」

半年後………現実世界での30分後

「はあはあ………さすがだよ………まさかここまでとは思わなかったよケン君」

「つたりめえだ、アイツに逃げられてから寿命までずっと鍛練してきたんだ。死に際に会得したこの禁手も、歴代で俺だけしか使えねえし、俺にしか感知できねえんだよ。」

復讐………お互いに成し遂げようぜ。」

「そうだね、ありがとういつ「その名前で呼ぶな、俺は復讐者………早河賢だ！」そうだったね」

「時間だ、一悟に代わるぞ」

「ああ、本当にありがとう」

「じゃあな、まだまだヒヨッコの俺を頼むぜ」

「確かに頼まれたよ、ただしコレは悪魔の契約だ。対価はお互いの復讐の完遂でね」

そう木場が言うと言はニヤリと笑い消えていった。

「木場君、これで修行はお終いだよ。さあ現実世界に戻って。君を心配している仲間が連絡してきているよ」

今の君なら、必ず完遂できる！だから」

「分かってるよ、一悟さんもありがとう。僕は復讐を完了して、真の騎士になるよ」

「頑張ってるね。鋼造君の中から応援しているよ。それとここでの経験は全て現実の肉体にフィードバックされるからね。戻ったら17歳の姿になることをオススメするよ」

そう一悟が言うと言は木場は現実へと帰って行き、一悟も鋼造の精神世界へと帰って行った

「ただいま、賢さん少し話を聞かせてくれるかい？」

「………嫌だと言ったら？」

「残月で斬る!!僕達の誇りを無断で使う君をね!幸い今は君と僕しかいないからね」

「仕方ないな………、いいぜ教えてやるよ鎧創造真の禁手をな」

現実世界

「申し訳ありません部長………勝手な行動をしてみました」
「良いのよ祐人。罰として………今から任務を与えます。一度しか言わないからしっかり聞きなさい、良いわね?」

「はい」

「ゴカビエルの討伐が終わるまで、町の警戒任務に付いてもらうわ。その際に不審な人物への攻撃と、不審物の回収・破壊を許可します。不審である事の判断は任せます。以上！」

「ぶ、部長！」

「二度は言わないわ、分かっただら行きなさい！人員にイツセーと小猫を連れて行っても構わないわよ」

「はい！その任務必ず遂行してみせます！」

リアスは木場に命じ送り出すと、冥界へと連絡を取った

『やぁリーアどうしたんだい？連絡をくれるなんて珍しいじゃないか』

「ルシファー様……実は……」

『……把握してるよ、既に対策を検討中だから、無茶はするんじゃないよ。』

相手は最上級、君は良くて上の中だ。勇気と無謀は違う、わかるね？』

「はい」

『近日中に最上級の誰か向かわせる予定だから、憶えておいてくれ』
「はい、それと……暫く報告をしていなかったのですが……」

『……わかった。技術局に調べさせよう』

通信は終わり、リアスは夜空を見上げた後、姫島朱乃に悪魔家業休業のお知らせを配布させ、自身はこれからの対策を協議すべく親友ソーナ・シトリーのもとへと向かった